



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
ツムぐ学生

第35号

2017年8月9日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.14

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

こんなに寄り添う養護教諭



片葩小の養護教諭の江坂先生。昨日に続き今日も見に来てくれました。「もう一つのわくわく算数」のタイトルで紹介したBさんを見に来てくれたのです。

養護教諭でありながら、担任以上に、気になる子どものことをよく理解し、関わり、よりよい教育をしてくれています。わくわく算数では、子どもたちは、普段の学校生活では決して見せない「表情」「意欲」を見せます。それを実際に見に来てくれる。そして声をかけてくれる。子どもはうれし

いに決まっています。

SPさんの指導の邪魔をしないように、多くの片葩小の子の様子を見てくれました。笑顔でやさしいまなざしで見てくれました。子どもを慈しむ教師のあるべき姿が、ここにありました。勉強している子の横までいき、静かに腰をかがめ、がんばる様子を見てくれました。

教職を目指すSPさん、わくわく算数教室では子どもに「教える」という体験からすごく多くのことを学んでくれているのですが、同時に、現場の先生方が「どう子どもに関わっているか」「どんな気持ちで子どもと接しているか」それも肌で感じる事ができています。これを「現場感覚」と言います。こういうのは本に載っていません。大学の講義でも教えてもらえません。教育実習でさえも、実はここまでの「現場感覚」は学べていません。

「学校の先生方って、こういうとき、こんなふうに接するんだな、こんな表情をするんだな」わくわく算数数学では、現場の先生方の何気ない動きや子どもとの関わり、教育への思い…、いろんなことを肌で感じる事ができる、そういう場なのです。SPさんにとっても学びの宝庫、“Win-Win”の学びができる場なのです。



東浦中学校竹内稔博先生作成の「わくわく算数・数学教室通信第14号」を「ツムぐ学生」用に改編しました。